

奥出雲町における町村合併と小中学校の創設・統合経緯との関係  
—島根県仁多郡奥出雲町の事例研究その2—

小学校 中学校 創設  
地方自治 町村合併

正会員 ○佐々木 英臣\*  
正会員 牛島 朗\*\*  
正会員 豊田 智哉\*  
正会員 三島 幸子\*\*  
正会員 中園 真人\*\*\*  
正会員 細田 智久\*\*\*\*

1. 研究背景・目的

本研究では、その1に引き続き、奥出雲町の町村合併と小中学校の創設・統合の関係を分析する。分析資料は島根県教職員録(1950-2017)を基本とし、島根県教育委員会20年史、島根県中学校教育50年史、仁多町史、横田町史を用いた。戦後の新制中学校創設時の状況にどのように中学校が創設されたのかを明らかにすることを目的とする。

2. 奥出雲の人口動態

図1に奥出雲町の1889年から2015年までの人口動態を示す。1889年から1950年までは人口が増加傾向にあるがそれ以降は減少傾向に一転している。これは奥出雲町の主な産業であった「たたら製鉄」が大きく関係していると考えられる。明治期の1889年から1950年にかけては製鉄がまだ運営していた。このたたら製鉄が1950年以降は廃業し、それを生業としていた労働者が他の地域に流れ移ったことと、地域内産業が衰退、またこのころから日本が高度経済成長期に入ったことで若年層の都会への流出も影響して1950年に30000人いた人口も2015年には15000人以下に減少している。

3. 学制発布以前・小学校の創設期から戦後までの分析

学制発布以前は現在のような計画的な施設は僻地では行われておらず藩校や私塾ではなく寺子屋が普及した。旧横田町で開かれた寺子屋は25校、旧仁多町で開かれた寺子屋は16校におよび教授者1人に対し数名から数十名の子女に自分の仕事の合間に教える程度であった。

小学校の設立は明治の合併前から始まっており、1972年に学制が発布され全国で小学校の設置が進められた。現在の奥出雲町の範囲では16校の小学校が開設された。当時の校舎は寺子屋、郷倉、民家の一部を間借りなどして設置していた。しかし一般に学校に対しての理解は低く「百姓に勉強はいらない」という考えが強い時代であったため生徒は少なかった。教師も基本的には寺子屋の教師をそのままあてがうことが多く、その内訳は医師、神官、僧侶などと多種であった。その後、今日の学校教育の基としての姿が整いだしたのは1892年に国の制度改正により学校名が「尋常小学校」になった頃である。

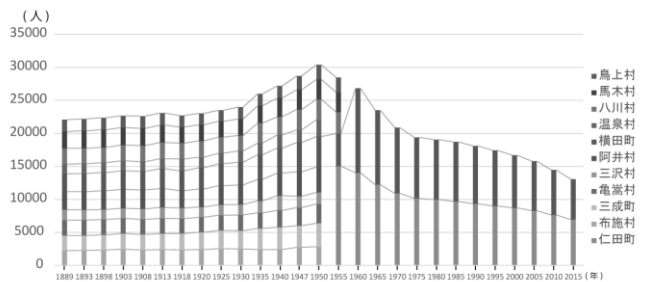


図1 奥出雲町人口動態(1889-2015)

表1 教育制度・学校制度

元号	西暦	日付	教育制度	学校制度
M5	1872		学制発布	尋常学校 下等小学
M12	1879		明治12年教育令公布・学制の廃止	尋常学校 下等小学
M13	1880			
M14	1881			
M23	1890		小学校令の改正(明治23年)	(簡易)学校 初等科 中等科
M25	1892		小学校令の改正(明治33年) 授業料の廃止	尋常小学校・高等小学校
M33	1900		小学校令の改正・義務教育期間が6年に	尋常小学校
M41	1908			国民学校
M42	1909			
S15	1940		国民学校令は昭和16年公布 国民学校令を中心に師範教育令改正	
S16	1941			
S19	1944			国民学校
S20	1945	9.15	新日本建設/教育方針	
S21	1946			
S22	1947	1.14	「学制改革案概要」 学校教育法公布(昭和22年) 昭和22年教育基本法・学校教育法	小学校
			新制中学校創設 同年六三制公布	
S28	1953	9.1	町村合併促進法	
		11.5	町村合併による組織・運営の合理化 「公立小・中学校の統合方針についての答申」	
S31	1956		規模適正化の推進 学校統合時の国庫補助が1/3から1/2に	
S45	1970	4.25	過疎地域対策緊急措置法 教育施設適正化で国の負担割合1/2から2/3に	
S48	1973	9.27	文部省通達「公立小・中学校の統合について」	
			急速な統合の進行に憂慮	
H27	2015	1.27	公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きの策定について	
			教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくり	

表1は教育制度と学校制度の変化を年表で示し、図2では奥出雲町の小学校の創設と統合の変遷を dendrogram で示している。小学校の創設は1873年、1874年の2年間で完了しており学制発布から間もない期間で設置していることから住民の努力がうかがえる。

図3については1888年の当時の奥出雲町の小学校分布図を示している。旧横田町では5校の小学校しか開校していないが馬木や八川といった谷間にある地域では小学校を中心地域の併置に設立されると通学距離が長くなる、という問題点から中間近くの谷あいには設置してると考える。旧仁多町では11校が開校しており開学に対する強い

奥出雲 小学校変遷

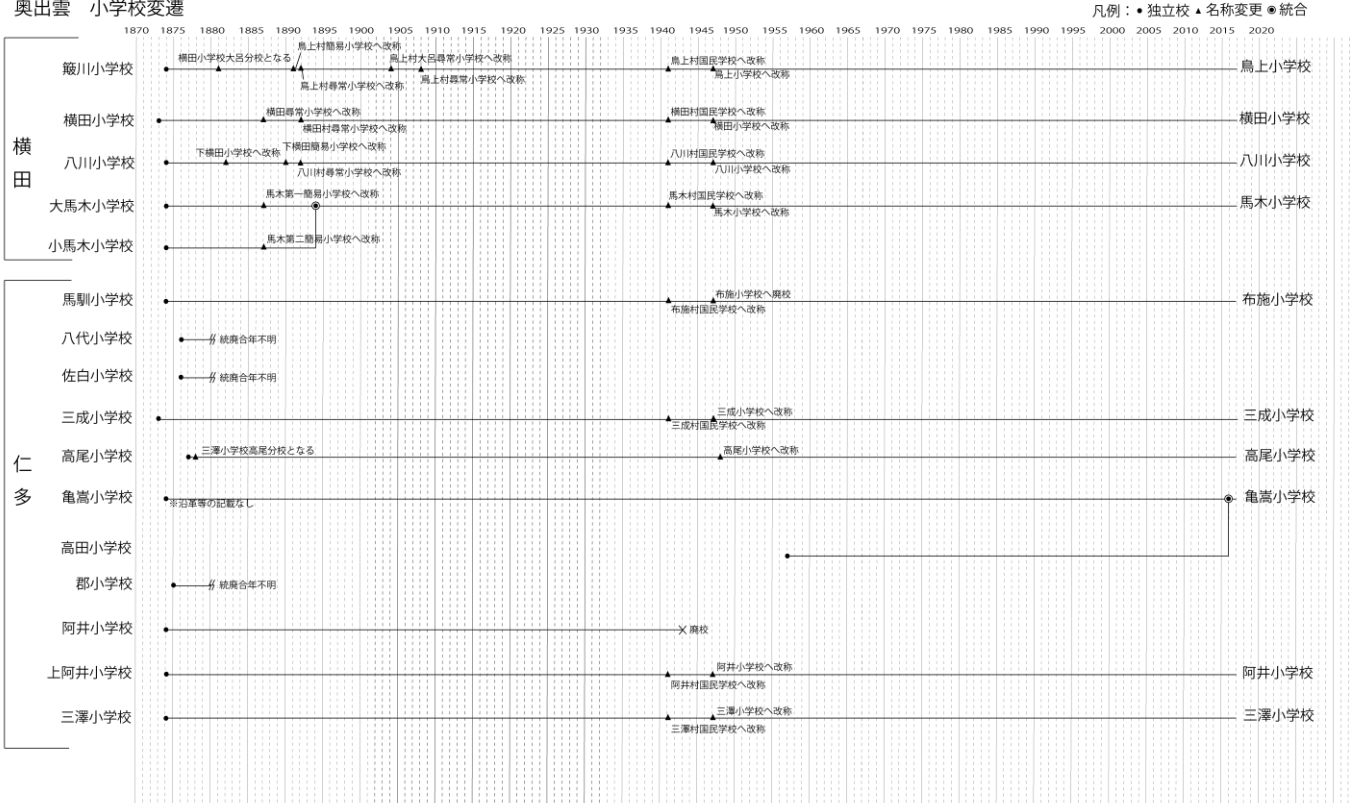


図2 奥出雲町小学校の創設と統合の変遷

思いが読み取れる。

その後の旧横田町では 1902 年以降は就学率、出席率共に上昇しており、いずれも 90%を超えていた。旧横田町各村は生徒数の増加と共に、校名は尋常高等小学校となり校舎の増築を行った。

それまでの学校統合については旧横田町では 1894 年に小馬木小学校が大馬木小学校に統合されている。旧仁多町では八代小学校、佐白小学校、郡小学校が統廃合されなくなっているが、これらについては詳細な記述がなく不明である。その後 1944 年に阿井小学校が統廃合されているがこれも同様に詳細は不明であるが、上阿井小学校の付近かつ当時の中心地に近かったこともあり廃校ではなく上阿井中学校に統合されたのではないかと考える。

4. 戦後の中学校創設期から 1960 年までの分析

図 4 は奥出雲の中学校生徒数を年別示し、図 5 は 1960 年時の小中学校の分布を示す。

奥出雲町では 1947 年の「新制中学校」に合わせて 9 校が開校し、当時の自治体それぞれが開校したので 1 村 1 小 1 中体制がほとんど整っていた。(亀嵩のみ小学校本校を 2 つ有している。) 奥出雲町における中学校の校舎状況は新制中学校設置に基づいて廃止された青年学校の間借りや小学校の間借りがほとんどであった。新校舎の設置は 1948 年より整備されている。1960 年までは中学校は生徒数の増減を繰り返していることや、校舎の新築に伴い中学校の統廃合は行われていない。

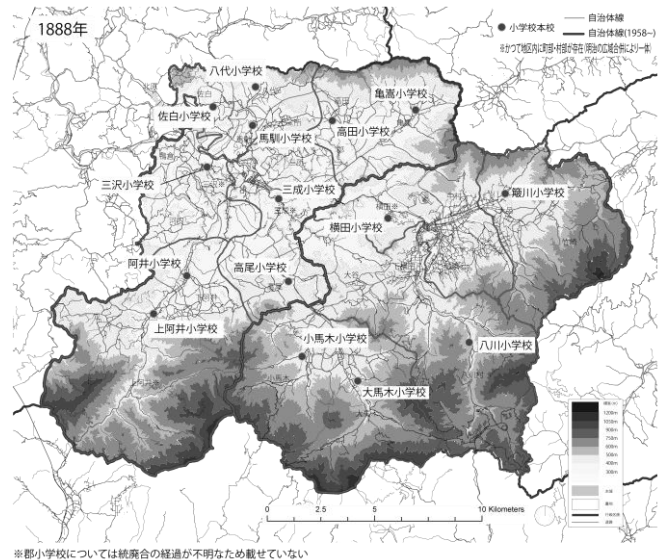


図3 1888 年の学校分布図

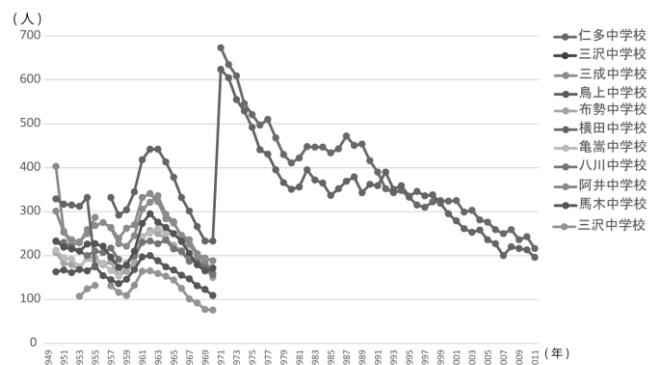


図4 中学校の各校別生徒数推移

この時期の奥出雲町は 1958 年に町村合併が行われ、もともと 9 町村あったのが仁多町と横田町の 2 町へと減少した。

### 5. 1961 年 - 1970 年代までの中学校統合期の分析

図 6 に 1961 年-1979 年までの小中学校分布図を示す。仁多町史より仁多町の 5 中学校は 1960 年代をピークに次第に生徒数減少に傾き、このような中で適正規模により教育効果を高めるべきだという教育思潮が大きくなり中学校統合の問題が発生した。このことから 1967 年に中学校統合審議委員会が発足し中学校統合を試みた。横田町史では 1961 年には中学校統合を計画しており、2 つの合併案が提案されていた。しかしこれらの委員会等の活動がありながらも統合が 1970 年まで長引いたのは、地域住民の意見の反発が主な原因である。その理由として各地域ともにおおの中学校の廃校がなくなることを反対していた。また統合した際の通学距離の問題も議論の一つで、通学のためのスクールバスの手配、冬季のための寄宿舎の建設などが挙げられた。しかしこの当時、それらすべての要望を叶えての統合は厳しかった為、早急な統合はなし得なかった。

しかし 1970 年に入り「過疎地対策緊急措置法」は発布され統合校舎建築の国庫補助率が 1/2 から 2/3 に引き上げられたことにより全国の過疎地域の学校統合の動きが活発化した。奥出雲町でも同様にこの機に両地域とも中学校統合に踏み切った。1970 年時点では名目統合までだったが、その後 1973 年に仁多町では新しく敷地を設け新設校を建設した。横田町では旧横田中学校の跡地にそのまま新校舎が建設され完全統合を果たした。

### 6. 1980 年-2017 年の小中学校分析

図 7 に 1980 年-2017 年までの小中学校分布図を示し、図 8 で小学校の各校別生徒数推移を示す。合併については平成に入り 2005 年に仁多町と横田町が合併を行い奥出雲町となった。小学校統合については 2016 年に高田小学校が亀嵩小学校に統合されたのみで他小学校では行われていない。ここで図 8 を見ると 1970 年以降はほとんど減少傾向である。合併が行われた 2005 年で見ても半数以上が生徒数 100 人未満に近いことがわかる。2015 年においては横田中学校のみ生徒数 100 人以上である。2016 年に統合された高田小学校は 2015 年時点で生徒数が 9 人となっているため、生徒数減少により統合されたと考える。今後も小中学校共に生徒数減少は進み今後数年の間に統合を余儀なくせれると考えるが、旧仁多町と旧横田町の住民同士の争いは現在も解決されておらず奥出雲町役場は 2 つに分離して設置され、機能も等分されている。これの影響は少なからずこれからの小中学校統合に影響すると考えられるため、どのような解決方法をとるのが問題となると考える。

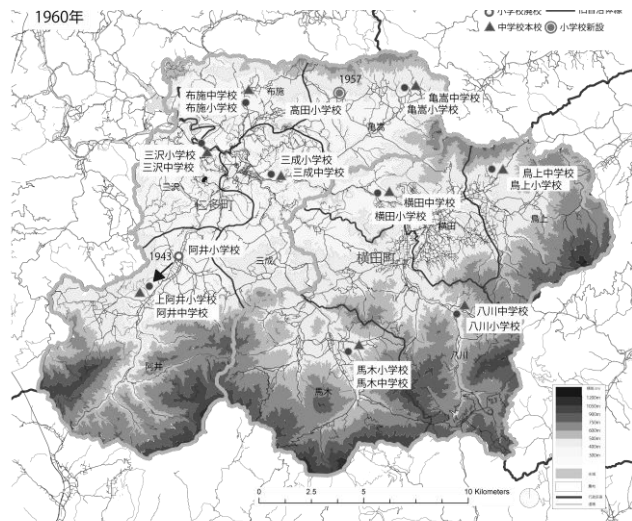


図 5 1960 年時の小中学校分布図

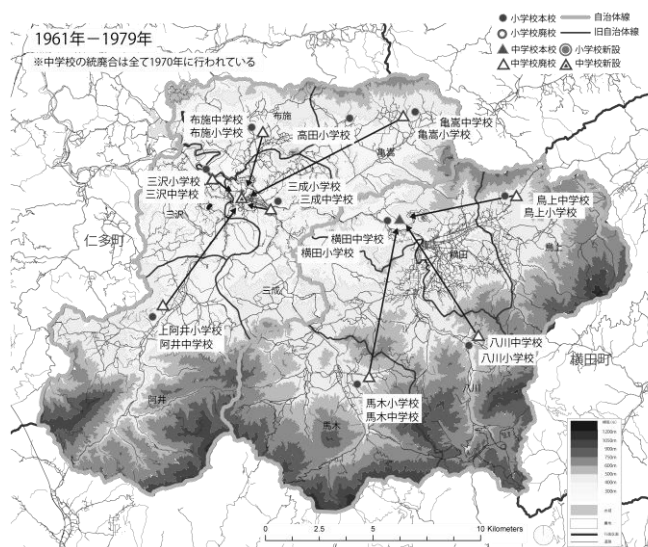


図 6 1961 年-1979 年までの小中学校分布図

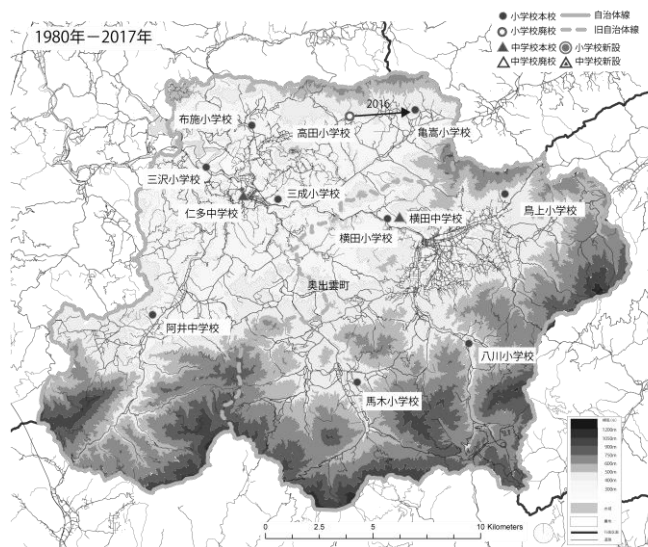


図 7 1980 年-2017 年までの小中学校分布図

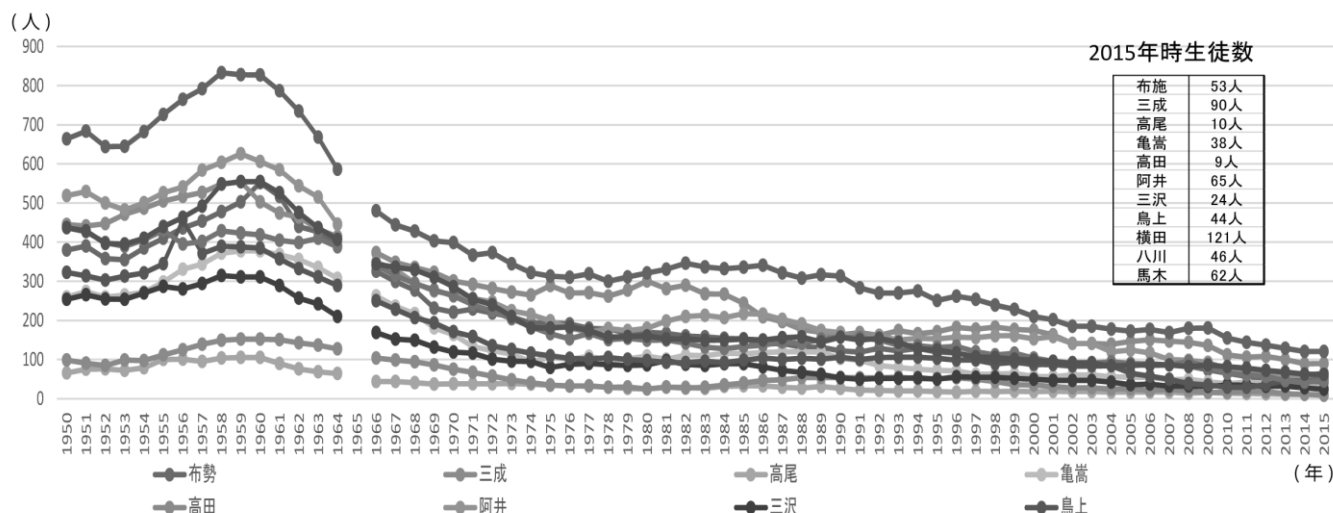


図8 小学校の各校別生徒数推移

### 3. まとめ

奥出雲の町村合併と小中学校の統合の分析を行ってきたが得られた知見は以下の通りである。①奥出雲の人口はたたら製鉄により盛んだったころは増加にあり人口 30000 人まで達したが、たたら廃業後は減少に一転し現在は 15000 人以下である。②学制発布時の小学校は寺子屋などの間借りで開校した。開校当時は就学率も低かったものの次第に増加した。③戦後に設置された中学校はほとんどの自治体で設置されており、ほぼ 1 村 1 小 1 中の体制が取れていた。④1955 年に 2 町に合併を果たしたが、学校の統廃合は見られなかった。⑤中学校の統合が行われたのは 1970 年からで「過疎地対策緊急措置法」が強く影響したと考える。⑥2005 年に仁多町、横田町が合併し奥出雲町となったがこのときも学校統合は行われていない。⑦小学校、中学校共に生徒数は 1970 年以降減少傾向にあり現在では生徒数規模も極めて少ない。これより今後数年の間に統合が行われると推測する。

- 6) 仁多町 仁多町史
- 7) 横田町 横田町史

#### 参考文献

- 1) 新修 島根県史 通史編 3
- 2) 島根県中学校教育 50 周年史
- 3) 島根県教育委員会 20 年史
- 4) 島根県職員録 1950-1970
- 5) 島根県市町村合併史

\* 山口大学大学院創成科学研究科 大学院生  
 \*\* 山口大学創成科学研究科 助教・博士(工学)  
 \*\*\* 山口大学創成科学研究科 教授・工博  
 \*\*\*\* 米子工業高等専門学校建築学科 准教授 博士(工学)

\* Student, Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ.  
 \*\* Assistant Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.  
 \*\*\* Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.  
 \*\*\*\* Associate Prof., National Institute of Technology, Yonago College, Dr. Eng Eng